

## 報告

## 「21世紀の地学教育を考える大阪フォーラム 第2回プレフォーラム兵庫」に参加して

横尾武夫（大阪教育大学）

本年7月29日にメルクパルク大阪（郵便貯金会館）で開催される予定で準備が進んでいる「21世紀の地学教育を考える大阪フォーラム」の、プレフォーラムが3月25日、兵庫県立芦屋高校で開催されました。約80人の参加者があり、盛会となりました。

会の内容は、波田氏（神戸大学）の基調講演を皮切りにして、学校における新しい授業の試みや、科学博物館での実践報告などの講演がありました。特に天文学分野では、西はりま天文台の黒田武彦氏が「宇宙・地球史に学ぶ」という題で、地学教育の特質と重要性を語られました。また、開催地は阪神淡路大地震の被害地であることから、震災復興と防災の面で学問的な立場から社会的な活動を続けておられる田結庄氏（神戸大学）から、その経験と、その活動の教育へ意義について興味深いお話がありました。

7月の本フォーラムの準備状況について報

※編集部注：

21世紀の地学教育を考える大阪フォーラムのホームページのアドレスが下記のように改訂されました。同フォーラムの最新情報はホームページをご覧ください。

<http://geolo.sci.osaka-cu.ac.jp/oskf01/ofindex.html>

告と議論がありましたが、かなり規模の大きい催しとなるようです。本会場では、漫画家松本零士氏の記念講演が予定されています。また、その向かいにある東淀川高校で、主に児童生徒を対象にしてさまざまなテーマで実験演示や展示を行い、参加者には体験学習として楽しんでもらうという企画が進んでいます。

我が国で学校教育に本格的な地学教育が組み込まれて60年近くを経ましたが、近年は退潮の時であるという感拭えません。環境保全が地球規模の人類的な課題であること、また今日の教育において知の統合と対自的な思考方法の育成が人類の未来に向けての重要課題であることを鑑みて、地学教育を基礎学習として位置付けるために、制度的な整備とともに、学習内容の再構築が必要だと感じました。

横尾武夫 / yokoo@cc.osaka-kyoiku.ac.jp

## 報告

## 天文学とインターネットワークショップ2000

尾久土正己（みさと天文台 / 天網の会代表）

今年2月16日、17日の2日、和歌山県美里町にある美里町立情報通信センターにおいて、「天文学とインターネットワークショップ2000」が、天文情報処理研究会とWIDEプロジェクトの後援のもと開催された。

天文情報処理研究会は、天文学における様々な情報処理に関する情報交換や開発研究を行う団体であり、教育分野では、PAONETや「おたすけCD-ROM」の実験・開発を支援している。一方、WIDEプロジェクトは、我